

次世代の文法トレーニング本

1. be動詞
2. 一般動詞
3. 命令文
4. 感嘆文
5. 主語と動詞/目的語/補語
6. 自動詞と他動詞
7. 時制
8. 現在進行形
9. 過去形
10. 助動詞
11. 現在完了形
12. 受動態
13. 不定詞
14. 動名詞

例文暗記の使い方

1. 各表現を確認します。わからない単語や文法があれば、印を付けておきましょう。
2. 何回も声に出して読み上げ、英語と日本語をセットにして、しっかりと表現を覚えます。
3. 日本語だけを見て、即座に英語の表現が言えるようになるまで頭にたたき込みます。何度も反復して練習しましょう。
4. 3がスムーズにできたら、次の章に行ってください。

入試問題

1. 一度問題を解き、答え合わせをして間違えたところに印を付けておきましょう。
2. なぜ間違えたかをしっかり理解する。
3. もう一度解く。
4. わからなければ、LINEにて質問(現在は中止)

この教材では、僕が**20冊以上**の文法書を読み、各文法の本質の説明をしている部分だけを抽出し、英語を使えるための文法だけを集めたいわば**次世代の文法トレーニング本**となっています。さらにわからないところがあればすぐに質問できるという最高の環境を用意しております。

【このような方に向いています】

- ・英語初心者で何を始めたら良いのかわからない方
- ・入試を控えている方
- ・仕事で英語を必要としている方
- ・ネイティブの文法の感覚を知りたい方
- ・中学校・高校の文法を総ざらいしたい方
- ・文法書が分厚くて勉強する気にならない方
- ・実際には使わない文法を覚えたくない方
- ・小難しい用語が嫌いな方
- ・実際に使うトレーニングが乏しい方
- ・受験勉強で何を最初に始めたら良いのかわからない受験生の方
- ・1から学び、英文法の全体像をつかみたい社会人の方
- ・わからなくなったら質問したい方

【向いていない方】

- ・英文法を細部まで理解したい方
- ・話せなくてもいいので、文法だけを学びたい方
- ・スピーキングは必要ないという方
- ・英語の基礎が完璧な方

動詞の種類 動詞には2種類あります「be動詞」と「一般動詞」です

英語の核

be動詞は「I→am, You→are」

残りは全て「単数→is, 複数→are」で覚える

be動詞の核心は「イコール」です I am busy. I = busy

例文

I am a student.	私は学生です	I = a student
You are a student.	あなたは学生です	You = a student
He is in Tokyo.	彼は東京にいます。	He = in Tokyo
We are happy.	私たちは幸せです	We = happy

be 動詞の「否定文」と「疑問文」

英語の核

be動詞の否定文・疑問文は「be動詞中心」に作ります。

否定文はbe動詞の直後にnotを置いて、疑問文はbe動詞を文の最初に持ってきます。

例文

否定文

疑問文

I am a student.

I am **not** a student. 「私は学生ではない」

I am happy.

Am I happy? 「私は幸せ？」

You are a student.

You are **not** a student. 「あなたは学生ではない」 **Are** you a student? 「あなたは学生？」

Yes, I am. / No, I'm not.

「はい、そうです」 「いいえ違います」

He is in Tokyo.

He is **not** in Tokyo. 「彼は東京にいない」

He is a student.

Is he a student?

「彼は学生ですか？」

Yes, he is. / No, he isn't.

「はい、そうです」 「いいえ違います」

一般動詞

「be動詞」以外の動詞はすべて「一般動詞」と言います。
例えばrun「走る」eat「食べる」など数え切れないほどあるので、「一般」と呼ばれる。

英語の核

主語がIまたはYouなら「動詞はそのまま」
IとYou 以外の主語は「動詞にsをつける」複数ならそのまま。

例文

I play tennis.	私はテニスをします
You watch TV.	あなたはテレビを見ます
She plays tennis.	彼女はテニスをします
We have lunch together.	私たちは一緒にお昼を食べます

一般動詞の否定文

英語の核

一般動詞の前には、本来doとdoesが隠れていて、否定文のときにそれが登場するだけ

例文

I play tennis. 「私はテニスをします (I do play tennis) 本来doが隠れている

↓ (do を持ってきて、その直後にnotを置きます)

I do not play tennis. (I don't play tennis.) 「私はテニスをしません」

does を使う場合

3単元のsがある場合、doではなくdoesを使う

例文

She plays basketball. 「彼女はバスケットボールをします」

「She does play basketball」

(本来doesが隠れている)

(doesを使うとplaysがplayのように原型に戻りますdoesがsをもっていくから)

She does not play basketball. 「彼女はバスケットボールをしません」

一般動詞の疑問文

英語の核

英語は「語順を変える」と疑問文になります。否定文同様、隠れているdoとdoesを使って疑問文を作ります

例文

You like baseball.

↓

You do like baseball (隠れているdoが出現)

↓

Do you like baseball? (doを先頭へ)

doesを使う場合

She plays soccer.

↓

She does play soccer. (隠れているdoesが出現、playsが原型のplayになる)

↓

Does she play soccer? (彼女はピアノを弾きますか?)

疑問文の答え方 Yes, 主語+do. No, 主語+do not. を使います

Do you play tennis? (テニスをしますか?)

Yes, I do. / No, I don't.

(はい、します) いいえ、しません

does の場合 doで聞かれたらdoで答えるが、does で聞かれたらdoesで答える

Does she play soccer?

Yes, she does. / No, she doesn't.

はい、します いいえ、しません

be動詞の過去形

英語の核心

am・isの過去形はwas areの過去形はwereです 否定文と疑問文は現在形と同じ

例文

I am a student. 私は学生です

↓

I was a student. 私は学生でした

You are in the room. あなたは部屋にいる

↓

You were in the room. あなたは部屋にいた

一般動詞の過去形

英語の核心
規則動詞と不規則動詞があります
規則動詞はwatch→watched
不規則動詞はstand → stood, buy → bought など

一般動詞の過去形(否定文と疑問文)過去の場合はdidが隠れている

例文 否定文

I used the pen. 私はそのペンを使った
↓ (隠れているdidが出現/ usedを原型に戻す)
I did use the pen.
↓ (didの直後にnotを置く)
I did not use the pen. 私はそのペンを使わなかった

例文 疑問文

He played soccer. 彼はサッカーをした
↓ (隠れているdidが出現)
He did play soccer. (He didn't play soccer.)
↓ (didを先頭へ)
Did he play soccer? 彼はサッカーしたの？

疑問文の答え方 主語が何でもdidを使う

Did he join the swimming club?
Yes, he did. / No, he didn't.
はい、しました いいえ、しませんでした

命令文

英語の核
命令文は「動詞の原形」で始める。Please, just をつけると少しだけやさしくなります。
否定では最初に「Don't」をつけます。

例文

Come here.	ここに来なさい
Be careful.	注意しなさい
Don't be late.	遅れてはいけません
Don't touch the paintings.	絵に触れてはいけません

命令文はなぜ動詞の原形はじめるの？

英語では「まだ起きていない」ことには「原型を使う」という考えがあるため
「ここにすでに来てる人にここに来いとは言わないため」よって、命令文はまだ起きていないこと
に使うため原型を使う。

【余裕がある人のために】

命令文には「優しい命令文」も日常会話にはある

Have a seat. 座って

Fasten your seatbelt. シートベルトを締めてください

感嘆文

英語の核心

「なんて～なのだろう」という感動を表す文では「How＋形容詞(副詞)＋主語＋動詞」,

「What＋a/an＋形容詞＋名詞＋主語＋動詞」を使う

単語の配置を変えることで感動の気持ちを表せる

例文

How beautiful this house is! この家はなんて美しいのだろう

What a delicious dish this is! これはなんておいしい料理だろう

例文暗記シート まとめ【1ページ目の4つの注意点を確認する】

I am a student	私は学生です
I am not a student	私は学生ではありません
I play tennis	私はテニスをします
I don't play tennis	私はテニスをしません
Is he a student?	彼は学生ですか
Yes, he is. No, he isn't.	はい。いいえ。
Do you play tennis?	あなたはテニスをしますか
Yes, I do. No, I don't.	はい いいえしません
What did you buy?	あなたは何を買いしましたか
I bought a T-shirt.	Tシャツを買いました
Who plays the hero? Mike does.	誰が主役を演じるのですか？

Be careful.	注意しなさい
Come here.	ここに来なさい
Don't be late.	遅れてはいけません
Don't touch the paintings.	絵に触れてはいけません

Let's go shopping.	買い物に行きましょう
How beautiful this house is.	この家はなんて美しいのだろう
What a beautiful house this is.	これはなんて美しい家だろう

主語と動詞/目的語/補語

1. Ms. Ito teaches English. 伊藤先生は英語を教えている
主語(S) 動詞(V) 目的語(O)
2. My sister is a college student. 私の姉は大学生だ
S V C
3. Ms. Ito teaches English at school. 伊藤先生は学校で英語を教えている
S V O M

用語

S= subject 主語 V=verb 動詞 O=object 目的語 C=complement
補語 M=modifier 修飾語

SとOは名詞がくる Cは名詞と形容詞がくる Mは前置詞句や副詞がくる

5文型

英語の核

文型がわかれば動詞の意味もわかる

第1文型 SV **いる・動く**という意味

Kate lives in New York. ケイトはニューヨークに住んでいる
S V M

We got to Tokyo. 1 私たちは東京に**いた** (最終的に意味は変わらない)
S V M 2 私たちは東京に**移動した**

(toに注目すると～にという意味で方向・到達を示す前置詞なので2の訳が適切)

The bird makes for the south.
S V M

make for 単語の意味がわからなくても、文型で意味が決まるのでこれはSVの第1文型なので「**いるか動く**」方向を表すforがあるので「鳥は南に移動する」という意味になる
文型がわかると単語の意味がわからなくても、動詞の意味がわかる。

「一般的にはmake for = ~に向かうという意味だからと言われる」

第2文型 SVC SはCだ・Cになる (S=C)

He is famous. 彼は有名だ He = famous
S V C

He became a doctor. 彼は医者になった He = a doctor
S V C

SVCで使われる動詞

be動詞 ~である keep ずっと~である remain ~のままでいる
become, get ~になる grow 次第に~になる look ~に見える
seem ~に思われる sound ~に聞こえる smell ~のにおいがする
taste ~の味がする 大事なものはS=Cの関係

第3文型 SVO SがOに影響を与える 【SVOだけは単語力勝負になります】

He bought a new watch. 彼は新しい時計を買った(SイコールOじゃない)
S V O

SVCとSVOの違い

SVC He became a doctor. ○ He is a doctor.

SVO He bought a new watch. × He is a new watch.

※イコールの関係が成り立つかどうかで判断する

例文暗記シート

Ms. Ito teaches English.	伊藤先生は英語を教えている。
My sister is a college student.	私の姉は大学生だ。
Kate lives in New York.	ケイトはニューヨークに住んでいる。
There is a tree in the yard.	庭に1本の木がある。

He is famous.	彼は有名だ。
He became a doctor.	彼は医者になった。
He bought a new watch yesterday.	彼は昨日、新しい腕時計を買った。

第4文型 SVOO 与えるという意味になる

He gave Sally a ring. 彼はサリーに指輪をあげた。
 S V O O

英語の核

V+人+物の形をとる動詞はすべて(与える)と訳せる

teach 人 物 人に物 を教えると習ったが、本当は人に英語の知識を与 える
 ということ

show 人 物 人に情報を与える= 人に物を見せる

lend 人 物 人に物を貸す 人に物を与えるということ

【衝撃の事実】

単語の意味がわからなくても、すべて与えると訳せる。つまり意味がわかる。

第5文型 SVOC

We call our dog Elmo. 私たちは我が家の犬をエルモと呼ぶ
 S V O C

英語の核

SVOCの形をとる場合はSによってOをCにすると訳す

O=Cの関係が成り立つ

SVOCで使われる動詞

make O C OをCにする paint O C OをCに塗る call O C OをCと呼ぶ

find O C OがCだとわかる keep O C OをCの状態にしておく

leave O C OをCのままにしておく

文型のパワーが分かったと思います。従来では文型の形だけを教えられていましたが、実は文型は単語の意味がわからなくても意味が推測できてしまうという素晴らしいパワーを持っています。ぜひ、長文などで生かしてください

自動詞と他動詞

英語の核

自動詞:「あっそう」って言える動詞 目的語は取らない動詞 目的語 Oのこと
他動詞:「何を？」って聞き返せる動詞 動詞のすぐあとに目的語を取る動詞

例

write

昨日書いたんだ一って言ったら「何を？」って聞き返せるから他動詞

live

俺住んでるんだ一って言ったら「何を？」は意味不明

「どこに？」とは聞けるが、「何を？」ではないから自動詞

She swims in the pool every day. 彼女は毎日、プールで泳ぐ。

S V M M

(彼女は泳ぐ。「あっそう」と言えるので自動詞

「何を？」とは聞き返せない)

She often buys her clothes at that store. 彼女はよくあの店で服を買う。

S M V O M

(「何を？」と聞き返せるので他動詞)

注意すべき自動詞と他動詞

We discussed the matter. (他動詞) 私たちはその問題について議論した。

I agree with you. (自動詞) 私はあなたに賛成します。

Stand straight. (自動詞) まっすぐ立ちなさい。

I can't stand this weather. (他動詞) この天気には我慢できない。

例外

「何を？」と聞き返せないが他動詞になる動詞

marry ~と結婚する reach ~に到着する enter~に入る approach ~に近づくattend ~
に出席するresemble ~と似ている

このように例外はありますが、心配しないでください。数に限りがあるので、間違えたらその
とき覚えていけば大丈夫です。英語学習の基本は、95%にあてはまるルールを覚えて、例
外はよくばらず覚えなくても大丈夫。出会うたびに覚えていく。それで十分。数に限りがある
ので。基本的には上に書いたルールを覚える。

例文暗記シート

He gave Sally a ring.	彼はサリーに指輪をあげた。
We call our dog Elmo.	私たちは我が家の犬をエルモと呼ぶ。
She swims in the pool every day.	彼女は毎日、プールで泳ぐ。
She often buys her clothes at that store.	彼女はよくあの店で服を買う。
We discussed the matter.	我々はその問題について議論した。
I agree with you.	私はあなたに賛成します。
Stand straight.	まっすぐ立ちなさい。
I can't stand this weather.	この天気には我慢できない。

時制

英語の核

現在形＝現在・過去・未来形って覚える

例文

1. I go to school. 私は学校に行く
2. I love you. 私はあなたを愛しています
3. I usually eat bread for breakfast. 私はたいてい朝食にパンを食べる
4. The sun rises in the east. 太陽は東から昇る

解説

- 1は昨日も今日も明日も学校に行くということ
- 2は昨日も今日も明日も愛しているということ
- 3は昨日も今日も明日も朝食にパンを食べるということ
- 4は昨日も今日も明日も太陽は東から昇るということ

状態動詞: be動詞, belong, have, believe, like, love, hearなど
 動作動詞: eat, play, visit, watchなど
 頻度を表す副詞: always, usually, often, sometimes

状態動詞とは5秒後に中断・再開できない動詞
 動作動詞とは5秒後に中断・再開できる動詞

現在進行形

英語の核

5秒ごとに中断・再開できる意味を持つ動詞は進行形にできる。
また進行形にできるのは途中の概念がある動詞。

5. She is playing tennis now. 彼女は今テニスをしている

I belong to the drama club. 私は演劇部に所属している

✕ I am belonging to the drama club.

過去形

英語の核
過去形は今と切り離されたもので距離感が意識されている

例文

6. I loved him. 私は彼を愛していた

7. He played baseball last week. 彼は先週、野球をした。

8. He usually played soccer after school.
彼はたいてい、放課後にサッカーをした

解説

6は以前に彼を愛していたが今愛しているかどうかはわからない。

7は先週野球をしたが、しかしそれは今と特に関係がない

8はよく放課後にサッカーをしたが、今はしているかはわからない。

このように過去形は今と切り離されたもの。

パターン	過去形の作り方	例
基本原則	-edをつける	played / walked
語尾がe	-dだけつける	like→liked
語尾が子音+y	y→iにして-ed	study→studied
語尾が短母音+子音	最後の文字を重ねる	stop→stopped

過去進行形

英語の核
現在進行形とほぼ同じで、途中の概念がある動詞で、過去に～していたという何かをしている最中のことをあらわす。

9. She was playing tennis around 4 p.m.
彼女は午後4時ごろテニスをしていた

解説

過去のある時点で行われていた動作を表している

9は過去の4時ごろという過去の一点でテニスをしていた途中であることをあらわす

例文暗記シート

I love you.	私はあなたを愛しています
I usually eat bread for breakfast.	私はたいてい朝食にパンを食べる
The sun rises in the east.	太陽は東から昇る
She is playing tennis now.	彼女は今、テニスをしている
I loved him.	私は彼を愛していた
He played baseball last week.	彼は先週、野球をした
He usually played soccer after school.	彼はたいてい放課後にサッカーをした
She was playing tennis around 4 p.m.	彼女は午後4時ごろテニスをしていた。

助動詞will

英語の核

willのイメージは「100%～する」です 「必ず～する」です。

名詞のwillを辞書で引くと、、、
意志 決意 命令 遺書 などがあり、
～すべてとても強い意志が感じられます。よって助動詞のwillにもとても強い意志があります。

1. I will be seventeen next month. 私は(必ず)来月17歳になる

解説

従来は～でしようと習ったが、来月17歳になるでしようというのは変なので、
必ず～するで覚える

2. I will call you tonight. 私は今夜あなたに電話します。

解説

2の文では必ず～するという強い意志がある。意志の他に推量の例があるが、基本は同じ。例えばIt will rainでは実際に100%降るということではなく、少なくとも本人は自信を持って100%降ると思っている。誤解しないように

be going to + 動詞の原形

2. I'm going to go shopping tomorrow.
私は明日、買い物に行く予定です。(前から決まっていた)
3. Look at the sky. It's going to rain.
空を見て。雨が降りそうだ。(現在の状況を見て)

解説

3はもう以前から予定として決まっていて、4は現在の兆候を見てからの予想。
willなどの助動詞は専門用語で法助動詞と呼びます。法というのは英語で言うとmood
と言い、なので法助動詞には気持ちがこもります。さらに助動詞には気持ちがこもるので主
観的な表現となります。

代用表現のbe going to は客観的な表現です。なのでもう以前から予定として決まったもの
や現在の兆候に基づいた予想の時に使われます。助動詞→主観的、代用表現→客観的と
覚えましょう

時や条件を表す副詞節の中で用いる現在形

英語の核

時や条件を表す(ifやwhenなど)副詞節の中では、未来のことでもwillは使わず現在形を用
いる。実はこれ、昔からの英語のまちがいから生まれた公式です。後で説明します。

例文 副詞節

1. Please call me when you **arrive** at the hotel.
S V ホテルに着いたとき、電話をください
このときのwhenは～のときと訳す

副詞節 副詞とは基本的にあってもなくてもいい要素。節はS+Vがあるもの

2. If it **rains** tomorrow, we will stay home.
S V もし明日、雨が降れば、私たちは家にいます。

【このときのifはもし～ならばと訳す】

時や条件を表す他の語句

when (～する時) before(～する前に) after(～した後に) until(till)(～するまで)
by the time(～する時まで) as soon as(～するとすぐに) if(もし～すれば)
unless(もし～でなければ) など

名詞節のwhenとifのときに用いる未来形

I don't know when he will be back.

S V O 彼がいつ戻ってくるのか私は知らない。

このときのwhenはいつ～かと訳す

I don't know if he will come. 彼がやってくるのかどうか私は知らない。

S V O

このときのifは～かどうかと訳す

解説

上の2つの文ではwhenとifは副詞節ではなく名詞節です。見分け方はknowは他動詞なので(know知っている。～をと聞き返せるので他動詞)knowのあとにくるのは名詞(O)です。よってwhen とif以降の文は名詞節となります。よって名詞節の中身は未来のことはそのままwillを使えます。副詞節→willを使わない 名詞節→willを使ってよいで覚える

現在形・現在進行形で未来を表す

英語の核

現在形＝現在・過去・未来形なので公的な予定(バスや電車の時刻表など)には現在形を使い、現在形で未来を表せる

予定が決まると頭のなかでリアルに進行しちゃう→思わず進行形を使ってしまう。

例文

1. The plane **leaves** for New York at 12:30.

その飛行機は12時30分にニューヨークに向けて出発する(現在形＝現在・過去・未来形)

解説

この飛行機は昨日も今日も明日もその飛行機は12時30分にニューヨークに向けて出発するので、もちろん未来でも出発するので現在形で未来を表せます

2. I'm leaving for Los Angeles tomorrow.

私は明日、ロサンゼルスに向けて出発する

解説

頭の中でリアルに進行しており、例えば実際にチケットを買ったり、ガイドブックを読みながら頭の中ではもう進行中で、ロサンゼルスに出発しつつあるということです。
ロサンゼルスに出発しつつある→明日出発すると考えれば大丈夫です。

例文暗記シート

P. 20

I will be seventeen next month..	私は来月17歳になる
I will call you tonight.	私は今夜、あなたに電話します
I am going to go shopping tomorrow.	私は明日、買い物に行く予定です
Look at the sky. It's going to rain.	空を見て。雨が降りそうだ
Please call me when you arrive at the hotel	ホテルに着いたら電話をください
If it rains tomorrow, we will stay home.	もし、明日雨が降れば私たちは家にいます。
The plane leaves for New York at 12:30.	その飛行機は12時30分にニューヨークに向けて出発する
I'm leaving for Los Angeles tomorrow.	私は明日、ロサンゼルスに向けて出発する

現在完了形

例文

現在形 I lose the key. 私は(昨日も、今日も、明日も)鍵をなくす。

過去形 I lost the key. 私は鍵をなくした
過去になくした。それだけ今持っているかは不明。

現在完了形 I have lost the key. 私は鍵をなくした
過去になくして、今も持っていないという意味。

英語の核

現在完了形はイメージで考える(日本語訳で考えない)

現在完了＝過去＋現在形 現在に焦点がある これが大事！！

have + p.pの形を現在完了形といいます p.p.は(過去分詞形)のことです
have + p.pは「p.p.(過去のこと)を、have(現在所有)している」という意味。

あえて細かく分けると以下の3つの意味があります。しかしイメージは同じ。

1 完了・結果「(過去から始めて)ちょうど今～したところだ」

I have **just** heard the news.

私はちょうどその知らせを聞いたところだ

完了・結果と共に使う語句

just ちょうど already すでに yet まだ

2. 経験「(過去から)今までに～した経験がある(今その経験を持っている)」

I have met Judy's brother **twice**.

私はジュディーのお兄さんに2度会ったことがある

経験と共に使う語句

once 一度 before 以前に ever 今まで never 一度もない

3. 継続「(過去から)今までずっと～している」

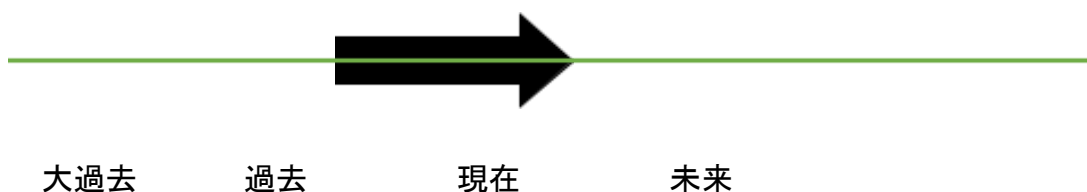
She has lived in Paris **for three years**.

彼女はパリに3年間ずっと住んでいる

継続と共に使う語句

for ～の間 since ～以来 How long どれくらい

現在完了形のイメージ



現在完了進行形(have + p.p. ~ ing)

He **has been watching** TV since this morning.

彼は今朝からずっとテレビを見続けている。(現在までの動作の継続を表す)

例文暗記

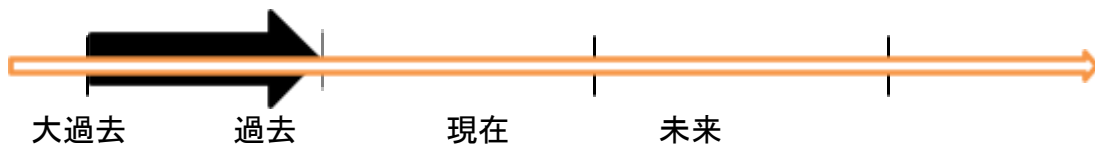
P. 24

I have just heard the news.	私はちょうどその知らせを聞いたところだ。
I have met Judy's brother twice.	私はジュディーのお兄さんに2度会ったことがある。
She has lived in Paris for three years	彼女はパリに3年間住んでいる
He has been watching TV since this morning	彼は今朝からずっとテレビを見続けている。

過去完了形(had p.p.)

1. 完了・結果「(過去の一時点で)~していた」
The party had already started when we arrived.
私たちが到着したとき、パーティーはすでに始まっていた
2. 経験「(過去の一時点までに)~した経験があった」
I had never seen an opera until I visited Italy.
私はイタリアを訪れるまで、オペラを見たことがなかった
3. 継続「(過去の一時点まで)ずっと~していた」
She had lived in Paris for three years before she came to Japan.
彼女は日本に来る前に、パリに3年間住んでいた。

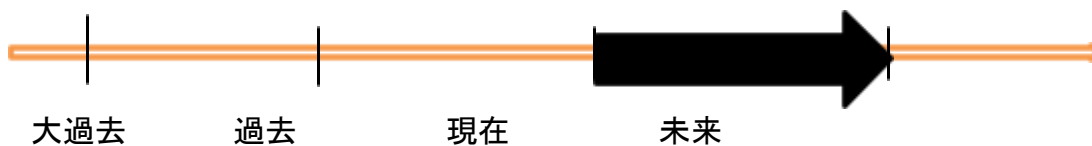
過去完了形のイメージ



未来完了形(will have p.p.)

1. 完了・結果「(未来の一時点で)~してしまっているだろう」
The party will have started by the time we arrive.
私たちが着くまでに、パーティーは始まっているだろう
2. 経験「(未来の一時点までに)~した経験があるでしょう」
I'll have seen the movie three times if I see it again.
その映画をもう一度見れば、私はそれを3回見たことになる
3. 継続「(未来の一時点まで)ずっと~していることになるだろう」
They will have been married for 20 years next year.
彼らは来年で結婚して20年になる。

未来完了形のイメージ



過去完了進行形(had been + ~ing) (過去のある時点までの動作の継続)

We had been playing soccer for an hour when it started to rain.
雨が降り出した時には、私たちは1時間(ずっと)サッカーをしていた

大過去 (過去のある時点よりさらに前に起きた出来事を表す形)

I heard that Fred had returned to Canada.
フレッドはカナダに帰ったと聞きました。

例文暗記 P. 26

The party had already started when we arrived	私たちが到着したときパーティーはすでに始まっていた
I had never seen an opera until I visited Italy	私はイタリアを訪れるまでオペラを見たことがなかった
She had lived in Paris for three years before she came to Japan	彼女は日本に来る前に、パリに3年間住んでいた
We had been playing soccer for an hour when it started to rain.	雨が降り出した時には、私たちは1時間サッカーをしていた
I heard that Fred had returned to Canada.	フレッドはカナダに帰ったと聞きました。
The party will have started by the time we arrive.	私たちが着くまでに、パーティーは始まっているでしょう
I'll have seen the movie three times if I see it.	その映画をもう一度見れば、私はそれを3回見たことになる
They will have been married for 20 years next year.	彼らは来年で結婚して20年になる。

助動詞 can/could

英語の核心

canのイメージは「いつでも起こる」で、そこから「できる」、「ありえる」という意味が生まれます

例文

1. She can play the piano. 彼女はピアノを弾くことができる
→ いつでも弾くことが起こる、つまりいつでも弾けるということ
2. Can I use your cell phone? あなたの携帯電話を借りることができますか？
→ いつでも借りることが起こるか、つまりいつでも借りれるか？ということ
3. Can you open the window? ドアを開けてくれますか？
→ いつでも開けることが起こるか？ということ

4. An accident can happen at any time. 事故はいつでも起こりうる

→ 事故はいつでも起こること

5. The rumor can't be true. そのうわさが本当であるはずがない

→ そのうわさが本当であるということがいつもしこらないということ、
つまり起こるはずがないということ

ADVANCED

canとcouldの違い

1 couldの方がcanよりも丁寧になる

理由は、まだ習っていませんがcouldはcanの過去形で仮定法とよばれるものです。よってcouldにすると「もしよろしければ」という仮定の意味が含まれる分丁寧になります

2. can は実際に可能かどうかを聞いていてcouldは依頼の表現になる

Can you finish your homework? 実際に宿題を終えることができますか？
(学力の問題などで終えることが可能かどうか聞いている)

Could you finish your homework? 宿題を終えていただけますか？(依頼)
(宿題を終えるように頼んでいる)

助動詞 may/might

英語の核心

mayのイメージは「50%」です。従来の「～してもよい」「～かもしれない」と覚えてもどれくらい「してよいのか」、どれくらい「かもしれない」かわかりません。

mayを使って「オススメ度50%」「予想率50%」と理解しましょう。

mightはcould同様、仮定法と呼ばれるもので、丁寧になります。

例文

May I ask you a question? 質問してもよろしいですか？

He may be at home. 彼は家にいるかもしれない

→ 予想50%

助動詞 must/have to

英語の核心

mustとhave toのイメージは「プレッシャー」です。

～しなければならない、つまり義務のプレッシャーになります
～に違いない、つまり推定のプレッシャーになります

例文

You must get some sleep. あなたは少し寝ないといけません
→ 義務のプレッシャー

You must not take pictures here ここで写真を撮ってはいけません
→ (not take)しないことが(must)義務→つまり禁止

I have to go to the dentist today. 今日、私は歯医者に行かなければなりません
→ 義務のプレッシャー

You don't have to take off your shoes. 靴を脱ぐ必要はありません
→ have to「～しなければならない」ということはない(do not)ということ
→ ～する必要はない

He must be tired. 彼は疲れているに違いない。
→ 疲れていると考えざるおえない → 疲れているに違いない
(推定のプレッシャー)

ADVANCED

mustとhave toの違い
must は主観的で自分の決心などで使い、客観的な外部からのプレッシャーでは
have to を使います。

例文暗記

She can play the piano.	彼女はピアノが弾ける
Can I use your cell phone?	あなたの携帯電話を借りてもいいですか
Can you open the door?	ドアを開けてくれますか？
An accident can happen at any time.	事故はいつでも起こりうる
The rumor can't be true.	そのうわさが本当であるはずがない
May I ask you a question?	質問してもよろしいですか？
He may be at home.	彼は家にいるかもしれない
You must get some sleep.	あなたは少し寝ないといけません
You must not take pictures here.	ここで写真を撮ってはいけません
I have to go to the dentist	今日、私は歯医者に行かなければならま

today.	せん
You don't have to take off your shoes.	靴を脱ぐ必要はありません
He must be tired.	彼は疲れているに違いない

助動詞 ② should / had better + 動詞の原形

英語の核心

shouldの核心イメージは「本来ならば～するのが当然」です。

そこから

→ 「～するべき・～したほうがいい」という意味と

→ 「～のはず」という意味が生まれます。

had better は「～したほうがいい」という意味で、脅迫や緊迫感がある表現。

例文

You should be more careful. あなたはもっと気をつけるべきだ。
(本来ならば、あなたはもっと気をつけるのが当然)

They should arrive here soon. 彼らはもうすぐここに着くはずだ
(本来ならば、もうすぐここに着くのが当然)

You had better see a doctor. 医者に診てもらいなさい。
(そうしないと、大変なことになるぞというニュアンス)

助動詞 will / would

英語の核心

willはこの前やったように「**100%必ず～する**」です。

このイメージから様々な意味が生まれます。

would は過去における習慣や、拒絶、丁寧な依頼表現となります。

しかし、イメージはこの場合過去形なので「**100%必ず～した**」となり、この意味だけを覚えるだけで大丈夫です。それを今から証明していきます。

例文

I'll do my homework after dinner. 私は夕食後に宿題をするつもりです。
(本人は必ず宿題をするつもりという意志がある)

My little sister won't eat vegetables.

私の妹はどうしても野菜を食べようとしない
(妹は必ず野菜を食べないということです)

Would you open the door?

ドアを開けてくれますか？
(あなたは必ずドアを開けるという意志を持っていますか？という依頼)

We would often go to the movies.

私たちはよく映画を見に行っていたものだ。(過去の習慣) (つまり、過去に映画を必ず見に行っていたということ→ ~したものだとなる)

助動詞wouldの代用表現 used to

英語の核心

used to は「今はそうではないが、以前は~した」という意味で「現在との対比」が強く意識されています。wouldにはこの現在との対比はありません。

例文

I used to walk to school with my friends.

私は(以前は)友達と歩いて登校したものだ(今はしていない)

There used to be a theater in the town.

その町にはかつて劇場があった。(今はない)

ADVANCED

wouldとused to の違い

1. would は助動詞なので主観的。used to は代用表現なので客観的。
used to は客観的だから過去と現在を対比することが可能になります。

2. used to は客観的なため、状態動詞を用いることができる。

例 I used to be poor. 以前は貧乏だった be は状態動詞

× I would be poor. wouldは主観的な表現なため事実を述べるものには不向き

助動詞 + have p.p. は「予想と後悔」

Point

(1) 過去への予想 「(過去に~だったと、(今) 予想する)」

① may have p.p. 「~だったかもしれない」= might have p.p.

I may have left the key at home. 「家に鍵を置き忘れたかも」

- ② must have p.p. 「～だったに違いない」
He must have had a good rest. 「彼は十分休息したに違いない」
- ③ should have p.p. 「～したはずだ」
He should have arrived home by now. 「今ごろ家に着いているはずだ」
- ④ can't have p.p. 「～だったはずがない」 = couldn't have p.p.
She can't have made such a mistake. 「そんな間違いをしたはずがない」

(2) 過去への後悔

- ⑤ should have p.p 「～すべきだったのに」 = ought to have p.p.
I should have taken his advice. 「彼の忠告を聞くべきだった」
= I ought to have taken his advice.

(否定)

should not have p.p. 「～すべきじゃなかったのに」
I should not have done this. 「こんなことするんじゃなかった」

- ⑥ need not have p.p. 「～する必要はなかったのに」
We needn't have hurried. 「急ぐ必要なかったのに」

would like はwant の丁寧な言い方。仮定法のwouldで遠回しに言っている
would like to want to の丁寧言い方。理由は上と同じ

例 I would like two tickets. 「チケットが2枚ほしいのですが」

I would like to make a reservation. 「予約をしたいのですが」

would rather 動詞の原形than 動詞の原形
rather は対比を表す単語で「～するよりもむしろ」という意味。

例 I would rather stay home than go out. 「外出よりもむしろ家にいたい」

受動態の意味と形

受動態 ～が～される

* 能動態 ～が～する

形 S (主語)+be動詞+過去分詞 (p.p.) +(by + 動作主)

意味 (動作主によって) Sは～される by ～ 意味 ～によって

受動態 (1) She is loved by the kids. 彼女は子供たちによって愛されている

成り立ち The kids love her.

She is loved by the kids.

(2) German is spoken in Austria. オーストリアではドイツ語が話されている

なぜbyがつかないかは後ほど説明します。

未来を表す受動態 / 助動詞を含む受動態

形 S (主語)+will be+過去分詞 (p.p.) +(by + 動作主)

意味 (動作主によって) Sは～されるだろう

(3) His new movie will be released in May.

彼の新しい映画は5月に公開されるだろう

形 S (主語)+助動詞+be +過去分詞 (p.p.) +(by + 動作主)

(4) This essay must be finished by tomorrow.

この作文は明日までに仕上げなければならない

このbyは～によってという意味ではない ～までにという意味

進行形の受動態 / 完了形の受動態

形 S (主語)+ be 動詞+being +過去分詞 (p.p.) +(by + 動作主)

意味 (動作主によって) Sは～されている(最中)だ

(5) A new building is being built on the corner.

新しい建物が角のところで建設されている(最中だ)

形 S (主語)+ have (has) been +過去分詞 (p.p.) +(by + 動作主)

意味(動作主によって) Sは～された(過去にされて現在その状態をhaveしてる)

(6) The wall has just been painted.

その壁はペンキが塗られたばかりだ

ULTRA ADVANCED

受け身

「日本語の受け身」と「英語の受動態」は違う

例 この手紙は彼によって書かれた

この食べ物は多くの人によって食べられる
なんか変ですよ？その理由は以下にある通りです。

英語の核心

① 日本語の受け身→「被害」「利益」を表すときだけ受け身を使う

例 彼に殴られる(被害) 上司に認められる(利益)

② 英語の受動態 →(それ以外にも)いろんな理由で受動態になる)

英語の受け身はいろんな理由で受動態になりそれを今から証明していきます

①「誰が」その行為を行ったのか知らない、述べる必要がない・述べたくない場合

German is spoken in Austria. オーストリアではドイツ語が話されている

この文では「誰が」を述べるのは難しく受動態の形を使っている。

またドイツ語がドイツ語を話す人によって話されているのは当然のことで、誰が話しているかは重要な要素でないためbyを使っていません。

②話に一般性をもたらす場合

③頭でっかちな文を避けるため

④行為を受けた人を目立たせ、話題の中心をそれないようにするため

SVOOの受動態

(1) They gave Mary a gold medal.

人 物

Mary was given a gold medal

メアリーは金メダルを授与された

(2) They gave Mary a gold medal.

A gold medal was given to Mary.

金メダルはメアリーに授与された

SVOCの受動態

(3) Her parents named the baby Catherine.

The baby was named Catherine by her parents.

その赤ちゃんは両親によってキャサリンと名付けられた

群動詞の受動態

(4) A foreigner spoke to me this morning.

I was spoken to by a foreigner this morning.

今朝、私は外国人に話しかけられた

by 以外の前置詞が使われる受動態

(5) The road is covered with snow. 道路は雪で覆われている

(6) We were surprised at the news. 私たちはその知らせに驚いた

不定詞

英語の核 to ~ は未来志向 「これから一する」という意味

希望、同意

want to ~ 「～したい」 hope to ~ 「～したい」

計画、決心

plan to ~ 「する計画だ」 decide to ~ 「～に決める」

チャレンジする

try to ~ 「～しようとする」 mean to ~ 「～しようとする」

積極的イメージ

(気持ちが未来に向いているから前向きな単語にもtoを使う)

manage to ~ 「何とか～やりとげる」

単発的イメージ

happen to ~ 「たまたま～する」 pretend to ~ 「～のふりをする」

否定的イメージ

(これからのイメージはあるが、プラスのイメージがない例外のもの)

hesitate to ~ 「～をためらう」 refuse to ~ 「～を拒む」 fail to ~ 「～しない」

入試問題

1 The businessman decided () a new car.

1. buying 2. bought 3. to buy 4. Bought

2 After a lot of problems she () to learn to drive a car.

1. put off 2. managed 3. succeeded 4. gave up

3 Ken has never failed () a birthday present to his mother.

1. for giving 2. to give 3. of giving 4. Give

Answer (1) 3 (2) 2 (3) 2

(1) 名詞的用法

S・C・Oになる S=主語 C=補語 O=目的語

1. Sになる

To get enough sleep is important. 「十分な睡眠をとることが大切だ」

S V C

It is important <to get enough sleep.>

仮主語

真主語

2. Cになる

Her dream is to be a singer. 「彼女の夢は歌手になることだ」

S V C

3. Oになる

I hope to go to university. 「私は大学に行くことを希望しています」

S V O

(2) 形容詞的用法

名詞を修飾する

1. SVの関係

I have no friend to help me. 「私を手伝ってくれる友達がいない」

S V

教 He had friends to help him. 「彼には助けてくれる友達がいた」

S V

2. VOの関係

I have no friend to help 「手伝ってあげる友達がいない」

O V

I have no friend to play with . 「一緒に遊ぶ友達がいない」

O V

教 I have a lot of things to do 「私にはすべきことがたくさんある」

(3) 副詞的用法

- 名詞以外を修飾する 「動詞・形容詞・副詞・文全体」を修飾する

1. 目的・結果系

目的 「～するために」

- 「目的」を明示したいときは **in order to ~, so as to ~** の形にする

I got up early to catch the 6:30 train.

I got up early **in order to** catch the 6:30 train.

「私は6時30分の列車に乗るために早く起きた」

結果 「その結果～だ」

He woke up to find himself in the hospital.

「彼は目を覚ますと、自分が病院にいることに気が付いた」

2. 理由系

(感情の)原因 「～が原因で・～して」

I'm glad to see you. 「私はあなたに会えてうれしいです」

「判断の」根拠 「～するなんて」

He must be clever to answer that question.

「彼はあの問題を解くなんて、賢いに違いない」

入試問題

1 I'm going to take the bus () money

1. saving 2. for save 3. to save 4. by saving

2 彼は、大きくなって有名な科学者になった

(be / a / famous / grew / scientist / up / to / he)

Answer (1) 3 (2) He grew up to be a famous scientist.

不定詞の「意味上の主語」

to の直前に "for 人" を置く **for 人 to ~** 人が~する

It's dangerous to stay here.

「ここにいるのは危険だ」

It's dangerous **for the children** to stay here.

「子どもたちがここにとどまるのは危険だ」

SVO + to 不定詞

I want you to come to tomorrow's party

S V O

私はあなたに明日のパーティーに来てほしい

● Oが不定詞の意味上の主語になっています

SVO + to 不定詞の形をとる動詞

would like , expect , allow, enable, tell , ask, advise

SVO + 原形不定詞

使役動詞

1. My mother made me clean my room.

「母は私に部屋の掃除をさせた」

make + O + do (Oに~させる) have + O + do (Oに~させる)

let + O + do (Oがすることを許す)

知覚動詞

2. I saw the man get out of the car.

「私はその男が車から降りるのを見た」

see + O + do (Oが~するのを目にする)

hear + O + do (Oが~するのを聞こえる)

feel + O + do (Oが~するを感じる)

疑問詞 + to 不定詞

I don't know what to do. 「私は何をすべきかわからない」

which 名詞 to do 「どちらの...を~すべきか」 when to do いつ~すべきか

where to do 「どこへ~すべきか」 how to do 「どのように~すべきか」

不定詞の否定形: to の直前にnot を置く(not to ~)

She told me to be late. 彼女は私に遅れるように言った

教 She told me not to be late. 彼女は私に遅れないように言った。

「不定詞」と「完了不定詞」の違い

普通の不定詞: to V → 主節と同時制

完了不定詞 : to have p.p. → 主節より「1つ前の時制」

He seems to be ill. 彼は(今)病気であると(今)思われる。

今 今

He seems to have been ill. 「彼は(以前)病気だったと(今)思われる」

今 過去

He seemed to be rich. 「彼はお金持ちのようだった」

↑seemedと同じ時制

●「過去」にrichだと、「過去」に予想

He seemed to have been rich. 「彼はお金持ちだったようだった」

↑seemed より1つ前の時制

●「過去の過去」にrichだと、「過去」に予想

入試問題

1 Is there anything for () on?

1. me sitting 2. me to sit 3. to sit 4. my sitting

2 She told () spend more than ten dollars.

1. me not to 2. to me not 3. not me to 4. me do not

Answer (1) 2 (2) 1

不定詞の進行形・受動態

不定詞の進行形 「to be + doing」

She seems to be enjoying her holiday.

「彼女は休日を楽しんでいるようだ」

不定詞の受動態 「to be + 過去分詞」

Children need to be accompanied by an adult.

「子どもは大人に同行してもらう必要がある」

不定詞を使った慣用表現

too + 形容詞「副詞」 + to do 「～するには・・・なのでできない」

I'm too tired to walk.

「私はあまりにも疲れていて歩けない」

形容詞「副詞」 + enough to do 「～するほど(十分)・・・」

He is smart enough to solve the puzzle.

「彼はそのパズルを解くほど賢い」

in order to = so as to ～するために

We arrived early in order to get good seats.

「私たちは良い席を確保するために早く到着した」

入試問題

1 I am too busy studying () to the party tonight.

1. by going 2. going 3. to go 4. for going

Answer (1) 3

動名詞

英語の核 ing~ 過去、消極的(中断、逃避)、反復のイメージ

動名詞の用法 ～すること と訳す

Playing basketball is fun. バスケットボールをすることは楽しい。

動名詞の意味上の主語

My mother doesn't like wearing short skirts.
母はミニスカートをはく(こと)のが好きではない

My mother doesn't like **me/my** wearing short skirts.
母は私がミニスカートをはくのが好きではない。

動名詞の否定形

I'm sorry for **not** writing sooner.
もっと早く手紙を書かなくてすみません。

動名詞が表すと(時)

She is proud of being a nurse.
彼女は看護師であることを誇りに思っている。

She is proud of having been a nurse.
彼女は看護師だったことを誇りに思っている。

入試問題

Do you mind () here ?

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1. me to get to call | 2. me to make a phone call |
| 3. my getting to call | 4. my making a phone call |

Answer 4

動名詞の受動態

My little sister is tired of **being treated** like a child.
私の妹は子供扱いされることにうんざりしている。

動名詞

英語の核 ing~ 過去、消極的(中断、逃避)、 反復のイメージ

動名詞を使った慣用表現

It's no use arguing with him anymore.

彼と議論しても無駄だ

There is no telling what will happen. 何が起こるかわからない。

(There is no way of ~の省略 ~する方法がない)

I am looking forward to hearing from you.

あなたからのお便りを楽しみに待っています。

I'm used to getting up early.

私は早起きに慣れている。

動名詞 / 不定詞を目的語とする動詞 / 後ろに動名詞をとる動詞

反復	中断	逃避
practice,	stop	miss
enjoy,	quit	avoid
be used to~ing,	give up	escape
mind,	finish	help
consider,		put off
imagine,		postpone
look forward to ~ing		object to~ing
		be opposed to ~ing
		deny
		resist

目的語が動名詞と不定詞で意味が異なる動詞

I remember seeing him at the party. 動名詞 過去志向

私は彼に(過去に)会ったことを覚えている。

Remember to turn off the lights. to 不定詞 未来志向
(これから)忘れずに証明を消してね。

入試問題

(1) We enjoyed () you with us tonight.

1. have 2. having 3. to have 4. of having

(2) You should not put off () your homework until the last minute.

1. to do 2. having done 3. doing 4. to have done

(3) Have you finished () the morning paper yet?

1. having read 2. reading 3. to read 4. to be reading

(4) 次の文の間違っている箇所を1つ選び、正しく直しなさい。

I clearly remember to post your letter yesterday.

Answer (1) 2 (2) 3 (3) 2 (4) to post → posting

あとがき

使える文法について詳しく述べていきました。本書の文法は、入試、旅行、仕事など全ての場面で使える文法です。

困ったらとりあえずこれに取り組めば間違いないでしょう。また英語を話す時に最低限意識する文法になっています。これを終えたあなたは英語の基礎が身についたと言っても過言ではないでしょう。何度も繰り返し取り組んでみてください。余計な知識はつける必要はありません。

入試で英語を使う方は、もちろん試験での英語を読むのに役に立ちますし、それ以上に将来必ず役に立つ英語の文法になってきます。入試問題も入っているので何度も繰り返し解いてみてください。

仕事で英語を使う方も、これらの文法は必ず役に立ちます。というのも正しい英語を話す際、ネイティブの感覚は欠かせません。それを本書で磨き、ネイティブと対等に話せるようになる日も近いでしょう。

英語の試験を目指す方は、この文法は、英検1級、TOEIC900点を取る際に必須の文法事項になります。僕のレッスン生で本書をきっかけに英検1級に合格した人や、TOEIC900点に合格した人もいらっしゃいます。みなさん『英語の本質がわかった』『はやく知りたかった』と口をそろえておっしゃってくれます。

無料で公開する理由は有料ではなく、英語を学びたい人を素直に応援したいからです。僕のYoutubeだってそうです。無料で公開し続けます。

最後になりますが、本書に取り組んでいただきありがとうございました。

イングリッシュおさる